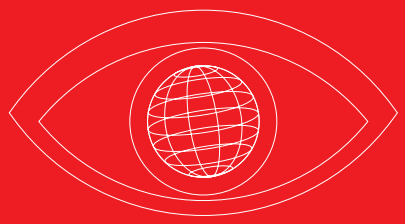
March 2004



Pick UP INTERNET MOVEMENT

ニュースな数字から見える3月のインターネット

1095万人

中国のDSLサービス加入者数

米DSLフォーラムは「2003年世界のDSLインターネット利用状況の調査結果」を発表し、世界のDSLユーザー数は前年比78％増の6384万人だった。国別で見ると1位は中国で前年比約5倍増の1095万人、2位は日本で同82％増の1027万人、3位は米国で同41％増の912万人だった。2002年に3位だった日本が一時世界一となったが、同4位だった中国に猛烈な勢いで追い抜かれた。2002年に2位だった韓国は4位に転落したが、普及率（電話回線100回線あたりのDSL利用率）では引き続きトップ。ただこれはあくまでもDSLの話。光ファイバー回線が家庭まで利用できるようになっているのは日本ぐらいだろう。

52.4％

3歳から小学6年生までのインターネット経験者

社団法人コンピュータエンターテインメント協会が、3歳から小学6年生までの子供を対象にアンケートを調査してまとめた「2004 CESAキッズ調査報告書」によると、「インターネットを使ったことがある」と回答したのは全体の52.4％（前回2000年調査時36.1％）だった。このうち、特に小学校高学年の利用率が高く、男子で78.8％（同62.5％）、女子で84.0％（同55.9％）にも上っている。女子のほうが高いのは意外だ。どんな使い方をしているかまではわからないが、インターネットには有害な情報も有益な情報も混在している。PCの使い方よりもそうした情報をいかに判断して活用するかが学校の教育では必要だろう。

10GB

無料オンラインストレージの容量

新しいオンラインストレージサービス「はこ箱.com」が3月1日に正式スタートした。このサービス、なんと会員登録すれば10GBの容量を無料で利用できる。個人向けのサービスとしては、有料でも50～500MB程度が主流なので驚きだ。ただし、アップロードしたデータをダウンロードする際の回線速度によっては課金される。50～400kbpsの「各駅モード」では無料だが、高速（ADSLで約4～8Mbps、光ファイバーで約30～70Mbps）の「特急モード」では1MB（1パケット）あたり約0.3円（基本料金は1500パケット500円から）かかる。ほかのユーザーとファイルを共有することもできるが、データは30日間までしか保存されない。

5000万曲

iTunes Music Storeのダウンロード購入曲数

米国だけでサービスされているアップルの音楽販売サービス「iTunes Music Store」のダウンロード購入曲数が、3月11日に5000万曲を突破した。CEOのスティーブ・ジョブズ氏は「他者が追いつくのを想像するのはますます困難になっていると」述べている。毎週250万曲のペースでダウンロードされており、年間では1億3000万曲になる見込みだ。5000万曲とはどのくらいのインパクトだろう。1曲3分として計算してみると、1億5000万分＝250万時間＝285年。1人が285年間聞き続けられる曲数ということになる。また、1曲一律99セントなので、5000万曲で4,950万ドル（約53億6,085万円）の売り上げとなる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

450万人を超える国内史上最大級の情報漏洩

Yahoo! BBのADSLサービス加入者情報が流出！企業の情報犯罪対策は万全か

ソフトバンクグループが運営するADSLサービス「Yahoo! BB」の加入者情報が漏洩して、大変な騒ぎとなっている。451万7039人分という漏洩数は、1社からの流出数として国内史上最悪だ。

2つの流出ルートで漏洩

今回発覚した漏洩には2つのルートがある。第一のルートは、元右翼団体代表（67歳）が昨年暮れ、DVDに収められた加入者名簿を何らかの手段で入手。これがYahoo! BBの二次代理店社長（55歳）の紹介で、同社副社長（61歳）にわたった。副社長は今年1月にソフトバンク側と接触。1月下旬にソフトバンク本社を訪問し、加入者名簿の入ったDVDとCDメディアの計2枚を手渡した。この際、「海外で合弁会社を設立するので20億～30億円出資してほしい」ともちかけたほか、加入者情報がこれ以上流出しないための顧問料として月々数百万円を要求していた。しかしソフトバンク側はこれを断り、警視庁に相談。元右翼団体代表と代理店社長、副社長の計3人が恐喝容疑で逮捕される結果となった。

一方、第二のルートはYahoo! BBのカスタマーサポートセンターで働いていた元スタッフ（31歳）の単独犯行であることが明らかになっている。元スタッフは2002年6月から2003年6月までの1年間、派遣会社の社員としてサポートセンターに勤務。この際、データベースから顧客情報を引き出したうえで、サポートセンターのPCに外付けフロッピーディスクドライブを接続し、フロッピー数十枚に数十万人分の顧客情報を保存して自宅に持ち帰っていた。元スタッフは1月中旬に104人分の顧客名簿をソフトバンクにメールで送信。「100万人分の情報を持っている」と約1,000万円での買い取りを要求し、恐喝容疑で逮捕された。

内部関係者が手引きした可能性も

第一ルートで逮捕された3人は「電子メールを読み書きするのがやっとという程度のコンピュータ知識しかない」（全国紙記者）と言われていて、元右翼団体代表らが直接データベースを操作した可能性は限りなく低い。このため、ソフトバンクグループの関係者が何らかの形で漏洩に関与したのでないかと見られており、警察の捜査もその方向に集中しているようだ。だが直接の漏洩先を知る唯一の人物である元右翼団体代表は、警察の取り調べにも頑強に口を割らず、捜査はかなり難航しているという。

システム構築のポリシーに問題か

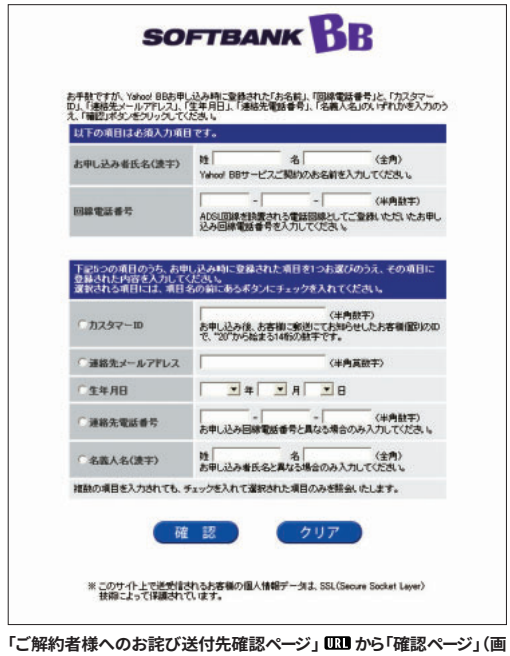
第二のルートは、流出経路がほぼ解明されている。事件発覚後、ソフトバンクは当初は「顧客データベースにアクセスできるのは135人しかいない」と説明していたが、その後の調査で、サポートセンターに関係する要員数千人が自由に顧客名簿にアクセスできるようになっていたことが発覚した。逮捕された元スタッフもこうした要員のひとりだったのである。

「サポートセンターのスタッフは直接データベースにはアクセスできないが、契約者の住所や申込日などを入力・検索すれば、データに合致する人の情報をすべて表示できるシステムになっていた」（取材に当たっている放送記者）という。顧客データベースが構築された際、個人情報保護は念頭に置かれていなかったのではないか。ある種の仕様ミスといえるだろう。

関係者からの漏洩がほとんど

Yahoo! BBに限らず、大手企業の顧客名簿が漏洩する事件が続発している。ほとんどが内部犯行と見られ、一部は架空請求詐欺グループや迷惑メール業者などにも渡っていると考えられ、被害が拡大する可能性もある。今後、こうしたケースがますます増えていくのは間違いないだろう。

（佐々木俊尚）



「ご解約者様へのお詫び送付先確認ページ」URLから「確認ページ」（画面）へ移動して、Yahoo! BB申し込み時に登録した「名前」などを入力すれば、自分の個人情報が流出しているかが把握できる。
URL http://bb.softbankbb.co.jp/information/listchk/

©1994-2007 Impress R&D

Digital Home

米国インテルCEO　クレイグ・R・バレット氏が講演

次なる技術革新は「デジタルホーム」！ 家電やPCの相互接続性と運用性が実現への「鍵」

米国インテルのCEO（最高経営責任者）クレイグ・R・バレット氏は、2月24日に都内で開催された「インテル デジタルホーム プレスセミナー」において、インテルの「デジタルホーム」構想について講演を行った（❶）。

次なる技術革新は「家庭」から

バレット氏は、まずに「パーソナルコンピュータ（PC）、インターネットの普及、デジタル化による家電製品とPCとの接続性の拡大、さらに無線技術の進歩によって、無線でもリッチなデジタルコンテンツのやり取りができるようになってきた」と過去20年以上にわたるさまざまな変革について語った。

そして、次に続く新しい技術革新は「家庭」、つまり「デジタルホーム」にあると述べた。

さらに、今後「家電製品とPCとの相互接続性」「ブローバンド接続」「豊富なデジタルコンテンツ」の3つの要素は、デジタルホーム実現への基盤となり、新しい機能やアプリケーション、ビジネスモデルの登場を促すようになると続けた。

その点において、日本は、すでに家庭におけるブロードバンド接続環境が進んでいること、またデジタル家電製品においても有数の家電メーカーがそろっていることなどを挙げ、デジタルホーム革命において世界をリードできるポジションにいるとも述べた。

夢でなくなったデジタルホームの実現

バレット氏は、ゲームや音楽、映像などのマルチメディアの世界でさまざまな変革が現実のものになってきているとし、新しいエンターテインメントサービスの現状を紹介した。

会場では、ミュージックビデオのダウンロードサービスやウォルト・ディズニー・ジャパンが提供する子供向けオンラインゲーム『トゥーンタウン・オンライン』などを、ワイヤレス接続されたPC上で実演してみせた（❷）。

また、MPEG-2よりも2倍以上の高い画像圧縮率で高品質な、最新のH.264（MPEG-4 AVC。AVCはAdvanced Video Coding）を実装したソニーのバイオを使って、H.264で符号化された映画「スパイダーマン 2」の映像が流された。

AV機器型の「Entertainment PC」

また、テレビのスクリーンに接続して利用できるスリム型のPC「Entertainment PC」の実演も行われた（❸）。これまでのPCとは違ったオーディオ機器のような形状であるが、デジタルコンテンツを楽しんだり、管理したりするために使われる。高品質のデジタルコンテンツをイーサネットだけでなく無線でも共有できるようになっているため、キーボードではなくリモコンで操作することもできるようになる。

2004年の半ば頃には、PCメーカー各社から800ドル以下の価格で販売されることが予定されている。

LCOS技術を採用した大画面テレビ

さらに、LCOS（エルコス。Liquid Crystal on Silicon）というインテルのシリコン技術を採用したハイビジョン対応の大画面テレビも紹介された（❹）。

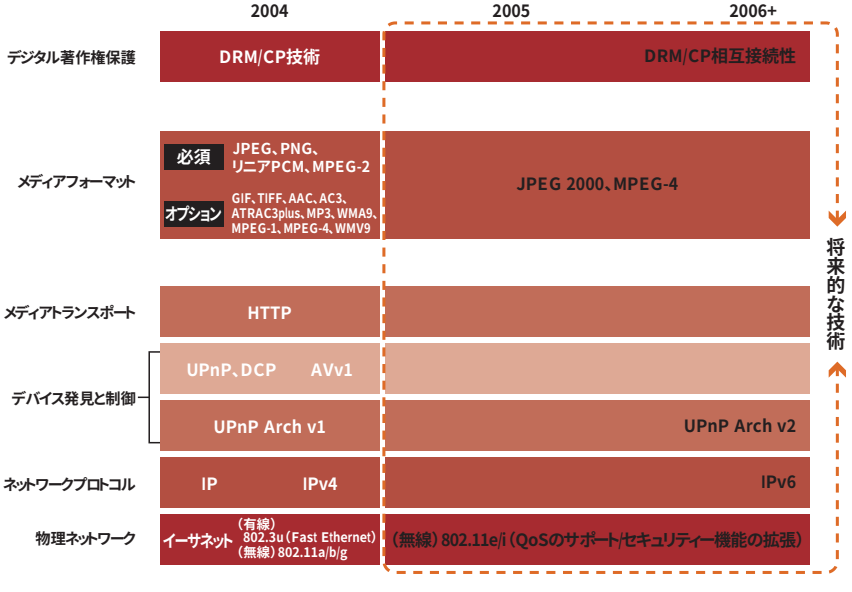
このLCOSは、透過投影型のテレビや大型テレビに映像を映し出すための「マイク

DHWGとは？

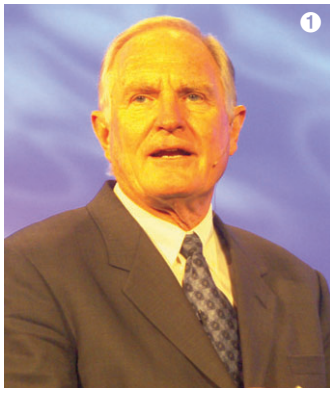
PCやテレビ、オーディオ、カメラ、携帯端末などのあらゆる機器の間で、デジタルコンテンツを共有できるようにするために、ガイドラインを作成するワーキンググループ。オープンスタンダードの技術にのっとって、異なったベンダーの機器同士を相互接続できるプラットフォームの確立を目指す。DHWGがカバーする範囲は右図のとおり。

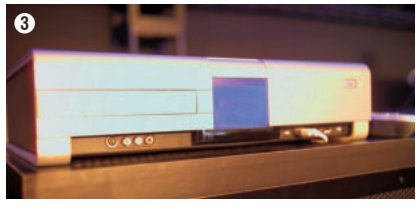
特に、メディアフォーマットについては、必須の実装フォーマットとしてJPEGとPNG（イメージ）、リニアPCM（オーディオ）、MPEG-2（ビデオ）を規定している。ただし、市場ニーズに対応するため、オプションとしてその他のフォーマットも実装できるようになっている。DRM（デジタル著作権管理）については、機器間の基本的な合意を最初の目的としているためバージョン1では規定されず、それ以降のバージョンでの策定を目指すとしている。

DHWGのフレームワーク



インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D





❶講演する米国インテル CEO(最高経営責任者)クレイグ・R・バレット氏
❷子供向けオンラインゲーム『トゥーンタウン・オンライン』
❸オーディオ機器のような「Entertainment PC」
❹LCOS技術を採用した大型テレビの紹介
❺インテルのモバイルプラットフォームコンセプトPC。コードネームは「Florence」

(写真提供❶❸❹❺:インテル)

ロディスプレイ」と呼ばれる小型チップの製造に用いられる。画面サイズや解像度の異なるさまざまな製品でも、マイクロディスプレイのサイズを変更することなく利用することができるので、低価格で製造できる。

この技術を使った製品は、2004年末までに2,000ドルという価格で登場する予定。

コードネーム「Florence」

会場では、インテルの2005年のモバイルプラットフォームコンセプトPC(コードネーム「Florence」)が日本で初めて発表された(❺)。これはBluetooth対応の無線キーボードや内蔵型VoIP電話機(IP電話機)が搭載されている。

キーボードには着脱可能なリモコンやIP電話が装着できるようになっている。さらに、指紋認証装置もあり、これによってユーザー認証も行える。

新デジタル革命へのガイドライン

バレット氏は、PCとさまざまなデジタル家電機器が無線のネットワークによってシームレスに接続され、連携して利用できることにより、「家の中のどこからでも、ノートPCや大画面テレビなどのいろいろな端末からコンテンツを楽しめるようになる」と述べた。

2003年6月には、コンピュータ、家電、モバイル機器のベンダー17社が中心となって、デジタル機器間の相互接続のためのガイドラインを作成する団体「Digital Home Working Group」(DHWG) URL が設立され、インテルも参加しているが、現在では参加企業は100社を超えているとのこと。

バレット氏は、2004年第二四半期に技術設計のガイドラインがリリースされ、このガイドラインに準拠した製品は、2004年末までに出荷される予定であると語った。このDHWGはあくまでも相互接続・運用に必要なベースラインを策定する団体であり、各社はそれぞれ拡張できるようになっているとも述べた。

2005年から2006年にかけてこの規格に準拠したさまざまなデバイスが発売される見通しであるという。

さらに、著作権保護の問題にも触れ、DHWGでは知的財産権について現在議論中であるとし、「いつでも」「どこでも」「自由に」コンテンツを楽しめるようにするには、コンテンツ制作者の立場だけなく利用者の立場を考えて、柔軟な技術の採用が望ましいと語った。

480MbpsのワイヤレスUSBを推進

一方、ナノテクノロジー(超微細加工技術)や無線技術の進展に加え、新しいデジタル家電の波を背景に、インテルの意欲的な取り組みが始まっている。

今回の講演では紹介されなかったが、2004年2月17日〜19日の3日間、サンフランシスコで開催されたIDF 2004(Intel Developer Forum Spring 2004)では、国際的に事実上の標準として広く普及している「有線のUSB」(Universal Serial Bus)の無線版である「Wireless USB」規格を制定する「ワイヤレスUSB推進グループ」の結成が発表され、注目を集めた。

同グループは、2004年末までにワイヤレスUSB仕様の制定を行う予定であり、その具体的な目標は、有線USB 2.0規格の最大伝送速度である480Mbps(距離3mの場合。10mの場合は110Mbps)。

同ワイヤレスUSB推進グループには、インテルのほか、米国のアギアシステムズ(Agere Systems)、HP、マイクロソフト、日本のNEC、オランダのフィリップス・セミコンダクター、韓国のサムスン電子の6社が参加。少数精鋭で取り組み、短期間で制定することを目指している。

これによって、家庭でもPCを中心にしたデジタル家電の新しいワイヤレスブロードバンドネットワーク環境が実現できると、大きな期待が寄せられている。

デジタルテレビ、デジタルカメラ、DVDレコーダーなどをはじめとするデジタル家電分野で世界をリードしている日本の市場は、インテルの「デジタルホーム」構想成功への鍵を握っていることは間違いない。(編集部)

URL http://www.dhwg.org/home/

©1994-2007 Impress R&D

本格的なブログ黎明期が日本に到来か

ブログ人、ココログ上位版、goo BLOGなど ブログ関連の注目サービスが続々と登場

登録すればすぐにブログを始められるASP型ブログサービスや、各種のブログ関連のサービスが続々と登場している。NTTコミュニケーションズ、NTT-X、タイトーなどの大手企業がブログ市場に参入し、高機能な有料版サービスが増えて選択肢が広がることで、これまでココログ、livedoor blog、はてなダイアリーの3大サービスが力を持っていたブログサービスの勢力図がどのように変わるのかが楽しみだ。

■OCN会員向けのブログサービス「ブログ人」

NTTコミュニケーションズは、「CoDen(個電)」コンセプトによるOCN会員向けブログサービス「ブログ人(ぶろぐじん)」を開始した。米シックス・アパートのブログツール「TypePad」をベースとしており、無料プランと有料プランの合計4種類のサービスがある(表1)。OCN会員以外でも、別途月額262円で利用できる。

「ブログ人」では、記事投稿、コメント、トラックバック、RSSの配信、携帯電話からの写真の投稿などが可能なうえに、アマゾンのデータを使って書籍やCDを紹介して、購入紹介料を得るアフィリエイトも簡単にできる。上位プランでは、ログ管理、日時指定投稿、複数ブログ、複数ユーザーなど、非常に充実したサービスとなっている。加えて、今後の追加機能として、コメントスパム(無関係なコメントの大量投稿)の防止機能、独自ドメイン対応、アフィリエイト先の拡大なども予定されている。

「ブログ人」のコンテンツとしても、都道府県別にブログを設定して、各ユーザーがブログで都道府県に関する記事を書くことで、その活性度に連動して日本地図が変化するユーザー参加型コンテンツの「日本沈没地図」などが用意されている。

サービス開始キャンペーン中は、全プラン無料(4月末まで)で利用でき、有料プランの初回1か月間はお試し期間となる。

URL http://www.blogzine.jp/

■ブログを複数作れて7人で書ける「AOLダイアリー」

AOLジャパンは、会員向け無料ブログサービス「AOLダイアリー」を開始した。AOLの会員は無料で利用できる。1人が最大7つまで(コースにより制限あり)ブログを作れて、各ブログは最大7人で共同編集できるため、家族やグループでのコミュニケーションにも活用できる。容量は各ブログ10Mバイトで、画像の投稿も可能だ。

URL http://diary.jp.aol.com/

■検索機能が充実した無料サービス「goo BLOG」

エヌ・ティ・ティ エックスは、無料で利用できるブログサービス「goo BLOG」を開始し

表1:「ブログ人」サービスプランと内容

	はじめの一歩	ホップ	ステップ	ジャンプ
月額料金(かっこ内は非OCN会員)	無料(262円)	315円(578円)	735円(998円)	1,260円(1,523円)
ディスク容量	30Mバイト	50Mバイト	100Mバイト	200Mバイト
機　能	記事の投稿と編集	「はじめの一歩」プランの機能すべて	「ホップ」プランの機能すべて	「ステップ」プランの機能すべて
	携帯電話やメールによる記事の投稿	アマゾンアソシエイト対応	ブログを3つまで開設	ブログに無制限に開設
		フォトアルバム機能(無制限)	デザインテンプレートの自由カスタマイズ	複数ユーザー(無制限)による投稿管理
		ログ管理機能	日時指定投稿	
		など	など	

表2:ココログのプラン比較表 (サービス差異部分のみ、「※」は近日開始予定)

	ベーシック	プラス	プロ
月額料金(かっこ内は非@nifty会員)	無料(262円)	473円(713円)	998円(1260円)
ディスク容量	30Mバイト	50Mバイト	150Mバイト
1アカウントで複数のブログを利用		3	10
ライターの複数設定			10人/ブログ
コメント一覧表示/連続コメント投稿自動規制	●	●	●
アクセス解析		●	●
独自ドメインでの運用※		●	●
モブログの認証方法の追加	●	●	●
ファイル削除機能※	●	●	●
記事の検索と置換		●	●
記事のオプション設定(キーワード、概要、追記)投稿日の設定(過去、未来)		●	●
テンプレートのスタイルのカスタマイズ		●	●
HTML、テンプレートなどの直接編集			●
サイドバーに「最新のトラックバック一覧」	●	●	●
マイフォトサービス(写真を見やすく一覧)		●	●
Atom Feed/Feed Autodiscovery/API	●	●	●
管理ページトップにお知らせ表示	●	●	●
プロフィールのリストにデリポップIDを追加	●	●	●

ブログのサービスとツール

「ブログ」とは、ウェブログ(weblog)が変化した呼び方。時系列に情報が表示されるウェブサイトで、ある程度頻繁に更新されるものを指す。Movable Typeなどのブログツールは、ブログに必須ではないのだが、簡単にブログを作って更新できたり、便利な機能を利用できたりすることから人気が高いが、プログラムを自分でサーバーにインストールする必要があるため、初心者にはハードルが高い。このため、初心者を中心に人気なのが、ココログなどの「ASP型ブログサービス」だ。サーバーのディスク領域からブログツールまで環境が用意されているので、契約さえすればだれでもすぐにブログを始められる。無料のサービスでは機能や利用方法に制限がある場合があるが、有料サービスは、多くの機能を備えて制限が少ないものが中心となる。

インターネットマガジン/株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

「ブログ人」の顔となるナビゲーションサイトには、ユーザーも読者も楽しめるコンテンツが充実している。

「ネッきゃら」では、キャラクターがふんだんにちりばめられたブログを作れる。
©松本零士・SHOWMAN'S
©TAITO CORPORATION 2004

た。利用には「gooパスポートID」の登録が必要(無料)。独自開発のブログツールで、一般的なブログの機能に加えて、リンク集の作成や携帯電話からの投稿が可能だ。画像の投稿も可能で容量は上限3Mバイト(文章は容量無制限)。

また、goo BLOGはping(更新通知)を受け付けていて、goo BLOG以外のブログでも、pingを送信すると5分以内にgoo BLOGの検索で記事の全文検索が可能になる。期間指定での検索や「人」の検索など独自の検索機能を持つgoo BLOGだが、今後さらに検索機能を充実させる予定だという。

URL http://blog.goo.ne.jp/

■上位版を追加してさらに新機能を追加 ココログ「プロ」「プラス」

ニフティは、ココログの上位サービスとして、「ココログプラス」と「ココログプロ」の2つの有料サービスを開始した。「プラス」が月額473円、「プロ」が月額998円で、表2のような多くの機能が追加されている。ただし、利用には@nifty会員である必要があるため、新規に@niftyに入会する場合は別途月額263円が必要となる。

リリース記念キャンペーンとして、6月末まではココログプラス/プロを無料で利用できる。また、新サービスの追加に伴い、既存のココログは「ココログベーシック」と名称が変更されるとともに、いくつかの機能が追加されている(表2)。

URL http://www.cocolog-nifty.com/

■有名キャラクターで作るブログサイト「ネッきゃら」

タイトーは、ブログ、キャラクター、オンラインゲームが一体となった異色のブログサービス「ネッきゃら」を開始した。有名なキャラクターを使ったブログを開設して、日記、掲示板、あしあとなどを利用できる。使えるキャラクターは次の3種類。

- 銀河鉄道999などで有名な松本零士氏の作品のキャラクターたち
- 3Dアニメーションとして人気を博している「ペコラ」
- 現代美術アーティスト岡田露愁(ろしゅう)氏の作品「GO TO THE HEAVENS」

キャラクターごとに月額525円の料金で、ブログを開設した人は、オンラインゲーム「みんなのあいらんど」の各キャラクター版で遊べるようになる。

URL http://netchara.com/

■クローズド環境用のブログサービス コミュニティBLOG 1000

グローバルコモンズは、1000人規模のコミュニティーのための、クローズド型ブログ「コミュニティBLOG 1000」のサービスを開始した。特定のメンバーしかアクセスできないサイト内に各メンバーがブログを作り、情報を発信したりコミュニケーションをとったりするシステムを提供するASPサービスだ。料金は専用のウェブサーバーとシステム全体の運用管理を含めて初期設定料が48万円、月間利用料が48万円だ。契約は1か月単位となる。

URL http://global.ad.jp/

■ブログ周辺サービスも続々と登場

ASP型ブログサービス以外にも、ブログの周辺ではさまざまな動きが起こっている。

・テンプレートデザインコンテスト

paperboy&coは、同社の無料ブログサービス「JUGEM」用テンプレートのデザインコンテストを4月18日まで開催する。

URL http://www.jugem.cc/

・気になる記事をブログにクリッピング

ドリコムは、気になる他サイトの記事の見出しを取り込んで、コメントとともに自分のブログに一覧表示できるようにする「Myclip」のサービスを開始した。

URL http://clip.myblog.jp/

・モブログ・カンフー

インフォバーンは、携帯電話からブログに投稿するゲートウェイmoblog.uva.ne.jpを通った写真が自動的に一覧表示されるサイト「モブログ・カンフー」のα版を公開した。

URL http://www.m-kungfu.com/

©1994-2007 Impress R&D

「アジア・ブロードバンド・シンポジウム」が開催される

世界の情報拠点を目指すアジアのブロードバンド 多言語間翻訳技術や遠隔医療／授業などの現状と展望

アジア・ブロードバンド計画とは

アジア・ブロードバンド計画は、2002年6月に決定された「e-Japan重点計画2002」「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」に基づいて、総務省を中心にまとめられ、2003年3月に策定されたURL。

この計画は、アジア地域内の情報流通量を増やし、アジア全体が世界の情報拠点となることを目指すというもの。

2010年までに、

❶アジアのすべての人々がブロードバンド環境を利用できること

❷情報通信技術を利用できるためのインフラの構築

❸アジアの主要言語間における翻訳技術の実用化

❹文化的財産などのコンテンツをアーカイブ化して共有し、世界に発信することなどが目標として挙げられている。

ブロードバンドの普及とその活用によって、多種多様な情報が時間的な制約や空間的な制約を受けることなく流通し、「企業」「行政」「非営利団体」などの活動の効率化や活性化が促されて「社会」「経済」「文化」の発展と安定につながると期待されている。

ブロードバンドをどう使うか

2004年3月12日、都内の千代田区放送会館で「アジア・ブロードバンド・シンポジウム（広がる可能性～アジアの未来はブロードバンドから）」と題したシンポジウムが行われた。会場では「アジア・ブロードバンド計画」に基づいた、活動や研究についての現状が報告された。

総務省・麻生太郎大臣の冒頭の挨拶に続いて、慶應義塾大学 環境情報学部教授・村井純氏による『ブロードバンド・インターネット：アジアでの可能性』と題した特別講演がスタートした。

村井氏は、高速衛星回線を使った遠隔授業について「インターネットはウェブや検索サイトの利用だけでなく、その足回りにあるデジタル情報の基盤作りが大切だ」とし、「ブロードバンドをどのように使い、どのような情報を流すのかが重要だ」と強調した。

機械翻訳技術は実用化間近か

さらに、京都大学大学院 情報学研究科教授・石田亨氏の講演『言語を超えて：デジタル北京の共同制作』では、IT技術を使った仮想都市空間「デジタル北京」やGIS（地理情報システム）を使った研究などが報告された。また、多国間で同一プロジェクトを遂行するために、多国間において言語の機械翻訳技術を採用した「同期型コラボレーションツール」の現状についての報告もあった。石田氏は、「現状の機械翻訳では精度に問題があるが、コラボレーションツールでは“意図を伝える”ことが重要視され、有効活用が可能だ」と新しい技術を駆使した研究の可能性について語った。

デモや展示では、日本と中国、日本とシンガポールをオンライン接続して高度ITの共同実験が行われた。（写真提供：2点とも総務省）

無線通信による遠隔医療の実情

続く東海大学総合医学研究所 助教授・中島功氏の講演『アジア太平洋地域における遠隔医療』では、無線通信を利用した遠隔医療の現状と研究についてのレポートが紹介された。具体的な例として「実際に遠隔医療で重症の患者が助かった」というケースが紹介され、遠隔医療の有用性を強調した。また、バーチャルリアリティー技術を応用することで、患者にしかわからなかった「異常」を、「医師と患者の間で共有」することが可能になるかもしれないと結んだ。

シンポジウムで最初の挨拶をする麻生太郎総務大臣

コンピューディアのメディア・プロデューサー・羽仁未央氏による『アジアのデジタルコンテンツ電子商取引ビジネスの将来』と題した講演では、「人間の行いのほとんどがデジタル化できるのではないか」という見解から、デジタル化が「人類の次の躍進につながる」という結論を導いた。

深刻な「情報格差」問題

その後、アジア各国からの代表が集まり、『アジア地域のICT政策　現状と今後の展望』と題したパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換がなされた。それぞれの国でのICT（Information and Communications Technology）についての政策とその現状、さらに今後の展望について報告された。その中で、「都市部と農村部との間でのデジタルデバイド（情報格差）」といった深刻な現状も浮き彫りになった。

最後に、各国の代表者は日本政府に対して、「資金的な援助だけでなく、技術的な援助や継続的な支援が必要だ」との要望を加えた。（秋葉けんた）

URL http://www.asia-bb.net/

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

Web Services

ブラウザーを使わずに情報を調べて簡単に文書に挿入

Amazon.co.jpのウェブサービスをWordやExcelから使う「リサーチ」機能が登場

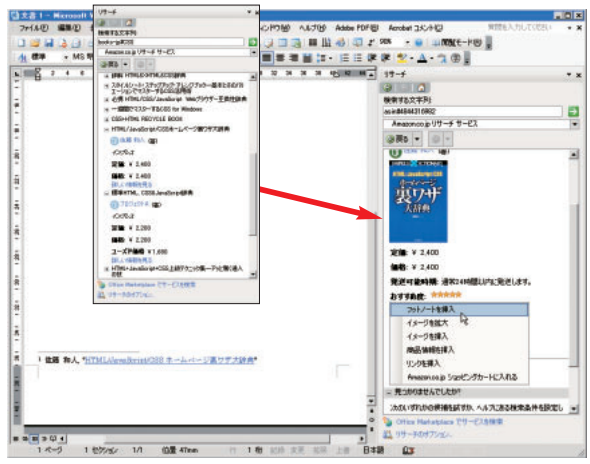
URL http://www.amazon.co.jp/researchservice/

アマゾン ジャパンは、オフィス2003（Microsoft Office System）と連携して、Wordなどから直接Amazon.co.jpの情報を調べられる「Microsoft Office System対応Amazon.co.jpリサーチサービス」の提供を3月から開始した。

これまでも、ブラウザーでアマゾンのウェブサイトを訪れるか、「Amazonウェブサービス」を使えばアマゾンの持つ商品情報を利用できたが、ウェブサービスの利用にはプログラミングの知識が必要だった。リサーチサービスの登場により、だれでも簡単に、作業中のWordやExcelから離れることなくアマゾンの情報を調べられるようになったのだ。

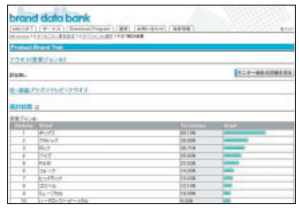
ユーザーは、Wordなどに組み込まれた「リサーチ」機能を使い、キーワードを指定してアマゾンにある書籍やCDなどの商品情報を調べられる。また、調べた情報や関連する画像を文書に挿入したり、選んだ商品をアマゾンのショッピングカートに追加したりも、ブラウザーを起動せずにできる。

リサーチサービスの利用は無料だが、ウィンドウズ2000またはXPと、Word 2003・Excel 2003・Outlook 2003のいずれかが必要だ。また、あらかじめアマゾンのウェブサイトからAmazon.co.jpリサーチサービスのソフトウェアを無料でダウンロードしてインストールしておく必要がある。（編集部）



Service & Product

EPエンジンがブランド解析・消費者動向分析のASPを提供



イーピー・エンジン、チームラボ、ネットマイルの3社は共同でブランド解析・消費者動向分析・モニタリングのASPサービス「BDB（ブランドデータバンク）」を4月上旬に開始すると発表した。BDBはネットマイルのユーザー3万人から集めた消費者のブランドの嗜好を分析し、企業が持つ商品やサービスのブランドの競合分析や類似分析ができるASP。利用料は初期費用200,000円、月額50,000円。

URL http://www.branddatabank.com/

オンライン書店bk1に国内ECサービスで初めてトラックバック機能付きサイト

ブックワンの運営するオンライン書店「bk1」は、トラックバックに対応したウェブサイト「bk1.jp」を3月16日に開設した。bk1のアフィリエイトプログラム「ブリーダープログラム」の参加者「ブリーダー」らが、自分のブログサイトで書いた書評などをその書籍のページにトラックバックできる。

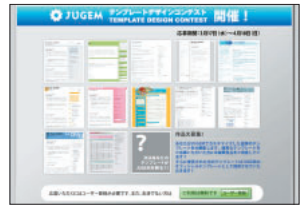
URL http://www.bk1.jp/

アサヒ・コムが大手ニュースサイトで初めて記事見出しのRSS/RDFを配信

朝日新聞社のウェブサイト「アサヒ・コム」は、RSS/RDFを使って「社会」「経済」「政治」など全ジャンルの速報ニュース記事の見出しと、記事URLの配信を3月1日から開始した。残念ながら、記事の概要までは配信されない。RDFのリンクは、トップページの右上にある。

URL http://www.asahi.com/

paperboy&coがブログサービス「JUGEM」のテンプレートデザインコンテストを開催



paperboy&co.が運営するブログサービス「JUGEM」は、「JUGEMテンプレートデザインコンテスト」を3月17日から4月18日まで行っている。JUGEM利用者なら誰でも応募できる。見た目のデザイン性はもちろんのこと、HTMLやCSSのコーディングの美しさも審査の対象になるという。

URL http://jugem.cc/contest/

©1994-2007 Impress R&D

グーグルの検索結果順位を定期的に無料で確認してくれるサービス「Googlet」が登場

ウェブの作成や運営などを手がけるオフィスORAは、指定したキーワードによる自分のサイトのグーグルでの検索結果順位を定期的に無料でレポートしてくれる「Googlet」サービスを3月3日から開始した。毎月1日と15日に順位をグラフなどでレポートする。

URL http://www.office-ora.com/

ライブドアが無料で出品、入札できる機能豊富な「livedoor オークション」を開始

ライブドアは2月26日、livedoor IDを取得していれば無料で利用できるインターネットオークションサービス「livedoor オークション」を開始した。自動入札機能やキーワード検索機能、予算からの検索機能など入札する際の補助機能やブラックリストなどの評価機能がある。また、出品リストをRSS/RDFで配信することも可能だ。

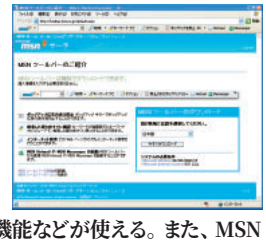
URL http://auction.livedoor.com/

三菱マテリアルが仮想ネットワーク構築ソフトウェア「SoftEther」の商用版を8月に販売

三菱マテリアルのエネルギー・システム戦略カンパニーシステム事業センターは3月1日、専用ハードウェアを導入することなく手軽に仮想ネットワークを構築できる「SoftEther」の開発者と、販売並びに製品化に関する独占契約を締結したと発表した。今後は協力して商用版の開発を進めて8月よりの販売を予定している。なお、通常版は、フリーウェアとして配布される。

URL http://www.softether.com/jp/

マイクロソフトがMSNの新検索フリーウェア「MSNツールバー」を正式公開



マイクロソフトは3月17日、検索サービス「MSNサーチ」の検索機能が使える新検索ツール「MSNツールバー」を正式に公開した。ウィンドウズ98/Me/2000/XPに対応するフリーソフトウェアで、インストールするとインターネットエクスプローラのツールバーに加わる。検索キーワードのハイライト表示やポップアップ広告の制限機能などが使える。また、MSNマネーやMSNニュースなどほかのMSNサービスも活用できる。

URL http://toolbar.msn.co.jp/

NTT-XがIDとパスワードを自動入力するソフトウェア「goo IDメモリー」を販売

ポータルサイト「goo」を運営するNTT-Xは3月8日、ECサイトや各種オンラインサービスを利用する際に入力するIDとパスワードを一元管理し、ワンタッチで自動入力できるソフトウェア「goo IDメモリー」の提供を開始した。IDとパスワードの登録がウェブサイト3件、ソフトウェア3件の合計6件までの基本機能は無料で利用できる。シリアルナンバーを980円で購入すると、7件以上登録できる。

URL http://idmemory.goo.ne.jp/

オムロンが電源を本体に内蔵した高速ハードウェアVPNルーター「VIAGGIO」を発売

オムロンは、ハードウェアVPN機能を搭載した電源内蔵型ルーター「VIAGGIO(ヴィアッジョ)高速VPNブロードバンドルータMR204DV」を3月6日に発売した。標準価格は39,800円。FTP計測値で最大92Mbps(公称値)のスループット、IPSec(3DES)時で最大20Mbps(SmartBit、公称値)のスループットを計測している。また、電源を本体に内蔵したことで、不慮の電源ケーブル抜けによるネットワークの停止を防止できる。

URL http://www.omron.co.jp/

松下電器産業が人感センサーを搭載したネットワークカメラ「BL-C10」を発売

松下電器産業は、人感センサーを搭載したネットワークカメラ「BL-C10」を4月10日より発売する。価格はオープンプライスで、実売価格は3万円前後の見込みだ。32万画素のCMOSイメージセンサーを搭載し、温度変化で人を検知する人感センサーによって、カメラの前で動きがあった時点とその前後の画像をEメールやFTP経由で送信できる。また、BL-C10向けにダイナミックDNSサービス「みえますねっとサービス」も提供する。月額利用料金はクレジットカードが1,029円、口座振替が1,575円。

URL http://panasonic.jp/p3/products/

コレガがIEEE 802.11a/g/bの3規格に対応した無線LAN4機種6製品を順次発売

コレガは、IEEE 802.11a/g/bの3規格に対応した無線LAN関連製品の4機種6製品を3月中旬から順次販売している。販売するのは無線ブロードバンドルーター「CG-WLBARAG」(24,675円、写真)、無線LANアクセスポイント「CG-WLAP54AG」(23,100円)、無線LAN PCカード「CG-WLCB54AG」(7,980円)、無線LAN PCIアダプター「CG-WLPCI54AG」(11,550円)の4製品と、無線LAN PCカードを添付したセット製品の2製品。無線LAN高速化技術「Super A/G」もサポートする。

URL http://www.corega.co.jp/

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

SSL証明書である「セコムパスポート for WEB」を標準添付

CsideNetが高セキュリティーレベルを確保したサービス「C'S SERVER Professional」を開始

CsideNetは、新たに法人向けホスティングサービス「C'S SERVER Professional」の提供を開始した。セコムトラストネットと業務提携し、SSL証明書「セコムパスポート for WEB」を標準サービスとして提供するなど、より高いセキュリティーレベルを確保しているのが特徴だ。

同社はこれまで個人向けを中心にホスティングサービスを提供してきたが、そこで培ってきたノウハウをビジネス領域のユーザーにも提供するために、メニューを整理して法人向けサービスに力を入れることにしたもの。

これに伴い、従来の法人向けサービス「Cside ANNEX」はC'S SERVER Professionalに統合され、個人向けサービス「CsideNet」と「Cside2nd」は、それぞれ「C'S SERVER Personal(サブドメイン)」と「C'S SERVER Personal(独自ドメイン)」に名称変更した。

法人向けサービスを強化するにあたり、とりわけ注力したのがセキュリティーレベルの向上だ。そこでCsideNetでは、セキュリティーブランドとして著名なセコムのネットワークセキュリティー関連会社、セコムトラストネットと業務提携を結び、セコムパスポート for WEBを標準サービスで提供することにした。SSL証明書はウェブサイト上でやり取りする個人情報などの暗号化と、ウェブサイト自体の存在証明に必要な機能だが、従来は導入の煩雑さと高いコストが障壁となっていた。これを標準サービスとすることで、ユーザーの負担を軽減している。

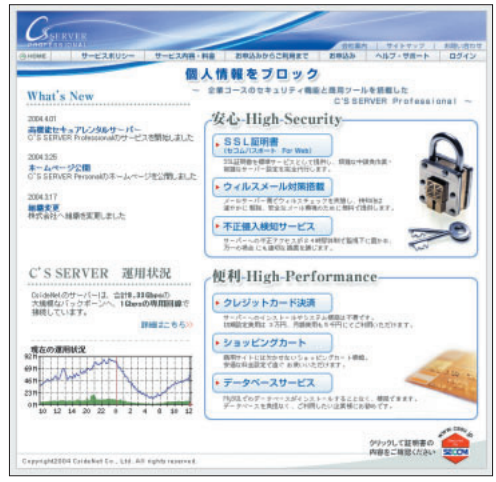
あわせて、セコムトラストネットが提供する「不正侵入検知サービス」も導入。これにより、サーバーへの不正アクセスを24時間体制で監視し、不正アクセスを兆候の段階から認知して適切な対応がとれるようにした。さらに、「セキュリティー診断サービス」によるポートスキャンレベルの定期診断を取り入れ、第三者によるチェックも行う。

ウイルスメール対策については、日本ネットワークアソシエイツが提供する「McAfee Security」の最高スペック機を導入しており、ユーザーは標準で100個のメールアカウントに対して、ウイルスメールチェックが無料で利用できるほか、スパムメール対策も行える。

メールの送受信やファイル転送についても、一般的なPOPやFTPに加えて、暗号化されたPOP over SSLおよび、FTP over SSLを利用することができる。

このほか、サーバー監視体制を自社内とネットワークセンターとの2系統にしていることも特筆すべき点だ。いずれも24時間365日の監視体制だが、自社内では2分間隔で、ネットワークセンターでは5分間隔で起動を確認し、障害検出時には2系統が連携して早急な復旧作業を行う。これにより、最悪の場合でも、障害発生から10分程度で復旧作業に入ることができるという。

また、ネットワークセンターのサーバー監視システムにより、サーバー起動状況のレポートが毎月提出されるので、サーバー正常運用の信憑性が高く、万が一、ウェブサーバーが1か月のうちに1時間以上のダウンタイムを経験した場合には、利用料金の30%が返還される。



C'S SERVER Professionalのトップページ。ウェブサイトが全面リニューアルし、トップページにはサーバーのトラフィック情報を常時掲載する。URL http://cside.jp/

※ステッカーの上部には、ユーザーのドメイン名が入る

■C'S SERVER Professionalの特徴

セコムパスポート for WEB	個人情報保護重視の時代、企業の大小を問わず必須の要件になってきたSSLを標準提供。ユーザーのサイトにセコムWebステッカーを掲載することで安全性に配慮したホームページ運営であることがアピールできる。
サーバーインフラの脆弱性対策	サーバーに対して第三者によるポートスキャンレベルの定期診断を実施し、脆弱性への対応もれなく実施している。
セコム不正侵入検知サービスの導入	24時間体制でサーバーへの不正アクセスを監視。不正アクセスを兆候の段階から認知して、適切な対応を取ることが可能。
メールのセキュリティー対策の標準化	日本ネットワークアソシエイツ(McAfee)の最高スペック機によるウイルスメール、スパムメール対策に加えて、メーラーとメールサーバー間の通信暗号化(POP Over SSL、SMTP Over SSL)に対応している。

■料金表

初期費用	12,000円
月額利用料金	6か月契約8,800円／12か月契約8,000円
ウェブスペースのディスク容量	1GB
メール容量	500MB
メールアドレス	100個
転送量	3GB/日
ウェブサーバー定員	40契約/サーバー
SSL証明書	標準添付(セコムパスポート for WEB)
クレジットカード決済	オプションで対応(初期費用3万円、月額基本料金5,000円、手数料4%、トランジット15円/件
料金の支払い方法	銀行振込

Rental Server

PC、携帯電話、PDAに対応し、フィルタリングなど多彩な機能を搭載

NTTPCコミュニケーションズが WebARENA Suite2に無料のウェブメール機能を追加

NTTPCコミュニケーションズは、同社が提供する共用サーバー型ホスティングサービス「WebAREANA Suite2」のオプションサービスに、無料で利用できるウェブメール機能を追加する。

提供開始するウェブメールは、パソコンだけでなく、PDA、携帯電話からも利用でき、携帯電話では、「iモード」「ボーダフォンライブ！」「EZweb」（WAP2対応）「AirH" PHONE」に対応している。また、アドレス帳、フィルタリング、迷惑メール設定、署名、開封確認などの機能があり、アドレス帳では、電話番号の登録や並び替え機能、グループ設定が行える。フィルタリング設定では、指定したアドレスや、文字列により、フォルダーへの移動、転送が行え、迷惑メール設定では、指定文字列が記入されているメールを削除することが可能だ。

同社では今回、ウェブメールサービスの提供にあたり、10数社のウェブメールを比較検討したという。その結果、ネオジャパンのグループウェア「desknet's（デスクネッツ）」の幅広い対応機種と豊富な機能を評価し、desknet'sのウェブメール機能をWeb ARENA Suite2に特化して提供することにした。

WebARENA Suite2は、「WebARENA Suite」の新シリーズとして昨年7月から提供開始したサービスで、従来シリーズからの「メールアドレス無制限」、「無料メールウイルスチェックサービス」、「フリーCGIプログラム対応」などの機能に加え、40以上の機能アップを図っている。これら機能に加え、高い安心感と、25Gbpsを超える超高速バックボーンに直結されたサーバー環境が評価され、SuiteとSuite2合計で約3万件のユーザーを獲得している。

URL http://web.arena.ne.jp/suite2/

なお、WebARENA Suite2では現在、新規加入時に1か月分の月額基本料金が無料となる「1カ月無料キャンペーン」を展開中だ。

Rental Server

ウェブ50MB＋1メールアカウント（100MB）で月額1,000円から

BIGLOBEがSOHO、中小規模企業向けに 低価格で導入が容易なホスティングサービスを開始

NECが提供する「BIGLOBE」は、SOHOや中小企業などの法人向けに、低価格で導入が容易なホスティングサービスを開始した。ウェブ50MBと1メールアカウント（メールボックス容量100MB）が月額1,000円からという低価格で利用できるうえ、ホームページ作成ツールなどの機能が提供されるので、初心者でも容易に導入できるサービスとなっている。

ウェブは最大1GBまで拡張でき、メールフォーム、掲示板などの基本的な機能がパックされた「ホームページ便利パック for オフィス」や、ホームページ作成ツール「らくらくホームページ for ビジネス」も安価に提供されるため、SOHOなどでも簡単にホームページを立ち上げられる。バックアップ機能や使用頻度の高いCGIをラインナップしたライブラリーも順次提供される予定だ。

一方、メールボックスはアカウントごとに300MBまで、メールアカウントは最大1,000個まで拡張でき、最大100MBまでの大容量メールの送受信も行える。ウイルスチェックや、メール盗聴防止（POP/SMTP over SSL）、メール受信フィルタリングなどセキュリティーオプションが無料で利用できるほか、メール転送設定、モバイル環境でのメールチェックなど、充実したオプションサービスで快適なメール環境を実現できる。

また、取得代行で新規に取得したドメインのほか、すでに取得済みのドメインも利用できるので、独自ドメインにより効果的なサイト運営やメール活用が行える。

URL http://business.biglobe.ne.jp/hosting/

BIGLOBE

サーバー環境も、大手プロバイダーとしての長年の実績のもと、24時間365日の運用体制で提供されるので、安心してビジネスに利用できる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.